

平成 27 年 2 月 28 日 (土)

びょうどういんきゅうけいだい

# 平等院旧境内遺跡 現地説明会資料

調査場所 京都府宇治市宇治塔川

調査期間 平成26年12月16日～平成27年3月上旬(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3  
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

## 1. はじめに

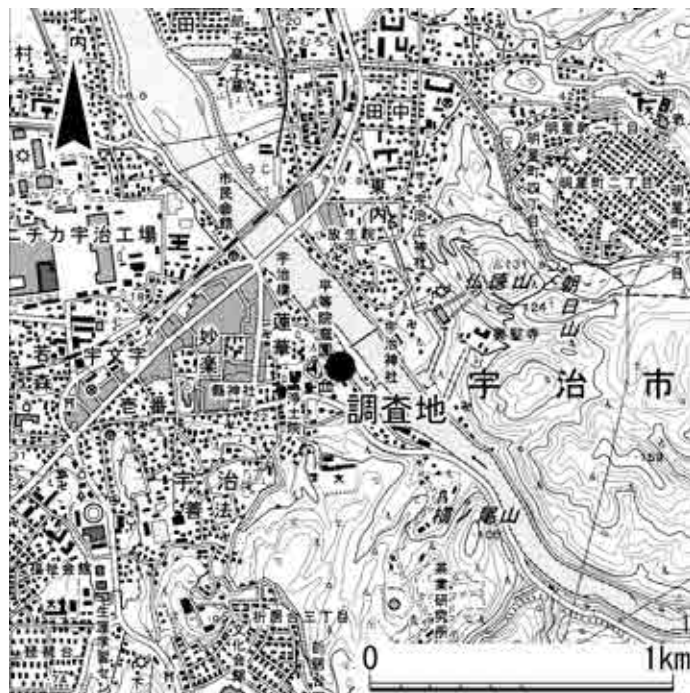
今回の調査は塔の島地区改修事業に伴い、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所の依頼を受けて実施しました。平成 24 年度から調査を行っており、今回で 3 回目の調査にあたります (第 2 図)。

平成24年度には、塔の川の喜撰橋の上流側と橋橋の下流側で調査を行いました。第 2・3 トレンチでは、川底を急激な水流から保護するために打たれた杭群 (千人杭) を検出しました。平成25年度には、喜撰橋と橋橋の上流側を調査しました。15か所のトレンチを設定し、そのうち 1・10・15・8 トレンチで石と土を盛り上げて木杭を打ち込んだ堤状遺構を検出しました。部分的な調査のため、詳しい構造や時期については明らかにできませんでした。採取した木杭の放射性炭素年代測定を行ったところ、室町時代、戦国時代～江戸時代前期、江戸時代中期～現代など、様々な時代に伐採されたことがわかりました。木杭の伐採年代からは、遺構の年代を特定することができませんでした。

今年度は、堤状遺構の詳細を明らかにするとともに、下流側に調査区を設けて、遺構の有無を確認しました。調査面積は1,600㎡です。

## 2. 調査の概要

1・3・4 トレンチ 現在の川底から深さ約

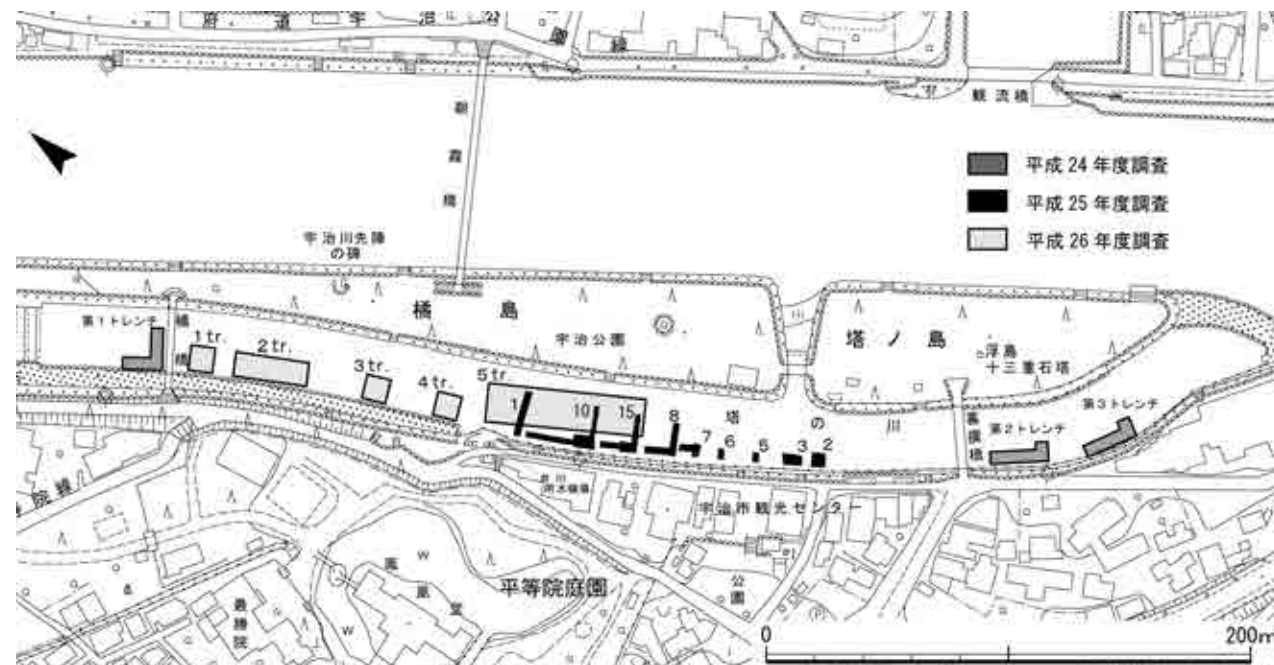


第 1 図 調査地位置図  
(国土地理院 1/25,000 「宇治」)

1 m にわたって現代の河川堆積土が堆積し、昭和 40 年代に設置されたコンクリートの川床およびその整地層を認めました。その下に、近世の遺物を含む河川内堆積層を厚さ 0.2 ～ 0.8m 確認しましたが、遺構面は見つかりませんでした。

2 トレンチ 1・3 トレンチの間に設定したトレンチです。1 トレンチなどと同様、コンクリートの川床およびそれに伴う整地土が認められました。それを除去すると地山上に薄く細砂が堆積し、その中から平等院関係の瓦や中世の土師器片などが出土しました。柱穴などの遺構は検出されませんでした。

5 トレンチ 昨年度確認した堤状遺構の詳細を明らかにするために、62m×16mの調査区



第 2 図 調査トレンチ配置図

を設定しました。

調査の結果、堤状遺構は南北53m×東西 5 m の範囲に、人頭大の石を埋め込んで土が盛り上げられて造られていました。高さは最大で約 0.5 m あります。平面的には岸側に向かい、緩やかな円弧をなしています。石の周辺には木杭が打ち込まれ、部分的に丸太が埋められていました。

内部からは摩滅を受けた瓦片のほか、近世の土器片が出土していますので、近世以降まで使われた可能性があります。

## 3. まとめ

5 トレンチで確認した堤状遺構についてはその性格は特定できませんが、塔の川の左岸近くにあることから、塔の川・宇治川の水を制御し防災のために造られたことは間違いないでしょう。

『宇治市史』によると、平等院から宇治橋にかけては宇治川の増水で水がつくため、江戸時代に堤が設けられたようです (第 4 図)。宇治川の河底の土砂を浚渫し、その土で堤を設けて水害を防いでいました。安永 5 (1776) 年の史料では、堤は「前々よりの仕来り」とあり、それ以前から堤が造られてい

たようです。

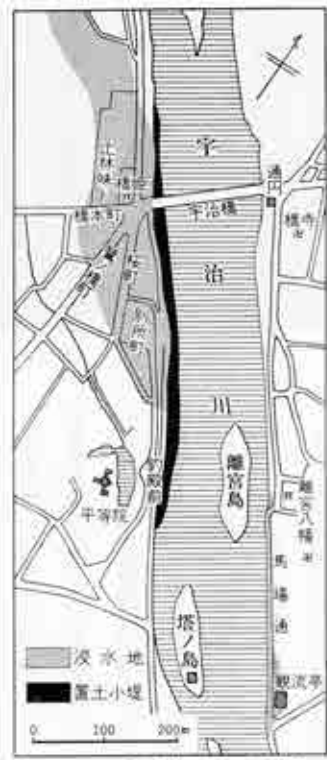
また、平等院から宇治橋にかけては、宇治浜・平等院浜と呼ばれ (第 5 図)、近世末・明治初頭には舟問屋 4 件、舟宿が 1 軒あったようです。今回の堤状遺構は、宇治川・塔の川の急な水の流れから船着場や川岸を護るために水流を弱める施設として造られたとも考えられます。

このように、今回の調査により、宇治の護岸のあり方の一端を知る貴重な成果を得ることができました。

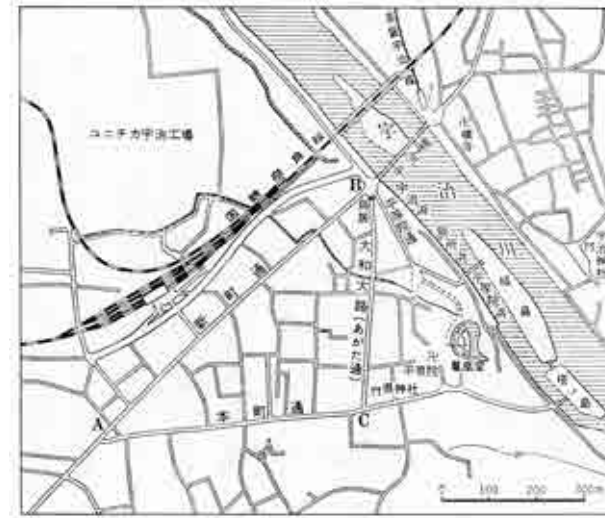


第 3 図 平等院釣殿と宇治川 (宇治市史より)





第4図 宇治川洪水の被災地  
(宇治市史より)



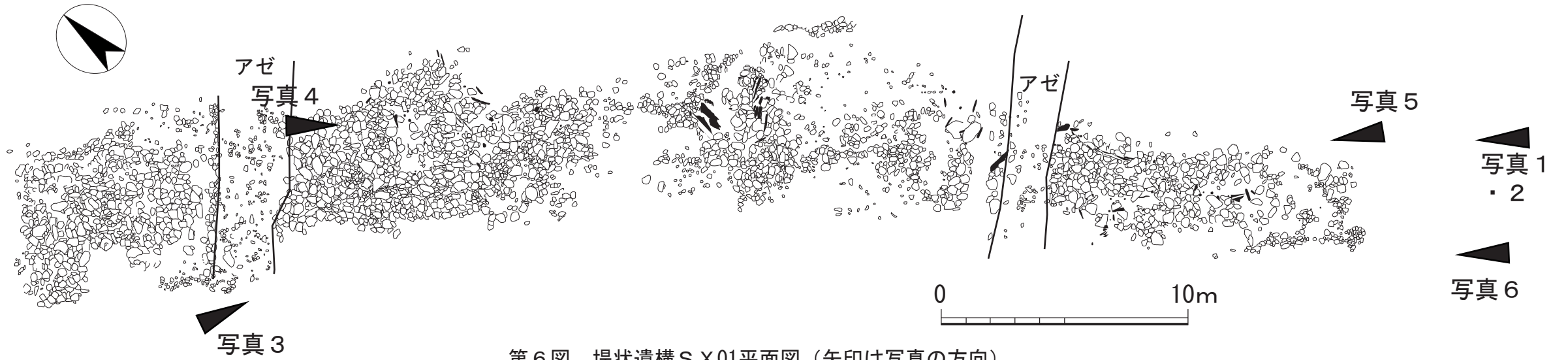
第5図 宇治橋周辺の浜 (宇治市史より)



写真1 堤状遺構 S X01 全景



写真2 堤状遺構 S X01 全景



第6図 堤状遺構 S X01 平面図 (矢印は写真の方向)



写真3 堤状遺構 S X01 北半



写真4 堤状遺構 S X01 北半



写真5 堤状遺構 S X01 北半



写真6 堤状遺構 S X01 全景